

2025 年の「穀雨」は 4 月 20 日です。

「穀雨（こくう）」とは？

「百穀春雨（ひゃっこくはるさめ）」「雨降って百穀を潤す」ということばからきていて、穀物をうるおす春雨が降る様子です。

百穀を潤し、芽を出させ、穀物の成長を促す雨です。

穀物に実りをもたらす雨が降り、新芽や若葉がぐんぐん育っていく季節となります。

春の不安定な天気も安定してきて日差しも強くなってきます。

雨が降って田畑を潤し、種まきや田植えの準備、新茶の収穫などが盛んになってくる季節でもあります。



「曳船や すり切つて行く 蘆の角（あしのつの）」 夏目漱石

俳句の世界では「蘆の角」は、春の季語です。

葭（あし）は川辺や沼辺などの低湿地に群生するイネ科の多年草。葦（あし・よし）と書くことも多く「芦」「蘆」とも書きます。



「穀雨（こくう）」の時期は、葭（あし）が芽吹く

「葭始生（あしはじめてしょうず）」の候と重なります。

「葭」は、水辺で最も大きな草本植物の一つで、葭の新芽は、まるで牙や角のように、まっすぐに力強く天を指して生育します。

葭の茎は長い上に、竹と同様に中が空洞なので、軽くて丈夫な素材であり、最も身近に感じるのはヨシの茎を編んで作った「葭簀（よしず）」です。

また、茅葺き民家の屋根材や垣根などにも利用されています。

「葭の原」は、水質浄化作用に優れており、また陸地と河川の緩衝地となり、生態系を安定的に保ってくれています。その生育力・繁殖力はとても強い一方で、強い風に対しては、柔軟にシななって曲がり、ゆらゆらと揺れてしのぎます。

フランスの哲学者パスカルは「人間は考える葦である」という有名な言葉を残しています。人間は、ひとくきの葦にすぎず、自然の中でひ弱な存在であるが思考を行う点で他の動物とは異なり考えることを通して無限の可能性を持っていると示唆しています。

春が盛りの時季を迎えて夏に向けて更に輝きを増す素敵な時季です。

『穀雨』らしい風景で季節感を味わいながら豊かな時を大切にしたいものです。